

議案外質問(3月8日) 藤井ひろき議員

市民ニーズに応え、公園墓地の魅力を活かす、新しいお墓のスタイル

**みどりが丘公園墓地に「樹木葬」の導入を提案**

藤井ひろき議員は8日の本会議質問で、墓地使用者の応募が減少している市みどりが丘公園墓地(緑区)に、ニーズが高い「樹木葬」を導入するよう提案しました。

**募集の半分に満たない墓地区画応募**

同公園は墓地と公園が一体となった、総面積約60ヘクタールの墓地公園。墓所区域はその約3分の1を占め、整備が完了した区画から応募を受け付けています。しかし応募倍率は昨年度0.4倍と、募集の半分以上にも満たない状況。一方で市は来年度、使用料を値上げする計画です。藤井議員は「値上げすればさらに申し込み者が減る。減少傾向への歯止め策は」と問いました。



三輪友夫緑政土木局長は答弁で「PRや草取り代行などサービス向上に努めている」と述べるにとどまりました。

**「樹木葬」4つの魅力**

藤井議員は同墓地に関する市のアンケート結果に触れ、「年金・所得の減少や少子・晩婚化を背景に、承継を前提としない墓地が求められている」と強調しました。



その上で藤井議員は、墓石の代わりに樹木や樹林を墓標にして、合葬式で故人を弔う「樹木葬」を紹介。応募が殺到している東京都や愛知県長久手市を例に、「公営樹木葬」の4つの魅力—①墓地使用料が低価格②管理など家族に負担をかけずにすむ③お墓の無縁化を防ぐ④緑あふれる公園墓地の魅力を向上させる—をあげ、同墓地に「樹木葬」を導入するよう提案しました。

これに対し三輪局長は「維持管理や承継面で心配事を抱えている市民が多い。他都市の事例をしっかりと調査し、市民に必要なお墓を提供したい」と答えました。

**「高齢者」は転居が困難**

藤井議員は、アパート退去を迫られている80代の女性から相談を受け、一緒に転居先を探したものの、高齢を理由になかなか見つけることができなかった経験を紹介。東京都板橋区などで行われている、民間住宅あっせんや相談窓口の設置など自治体独自の施策を例に、「単身高齢者はますます増える。住宅確保が困難な高齢者のための、支援策が必要だ」と求めました。

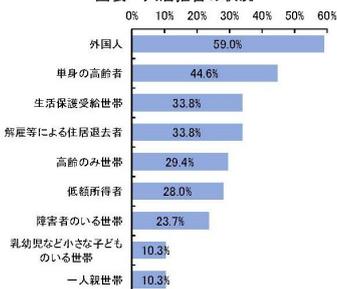
**市独自に住宅確保の支援体制を**

黒田昌義住宅都市局長は「国の法改正後、新たな住宅セーフティネット制度の検討を進めたい」と答弁。

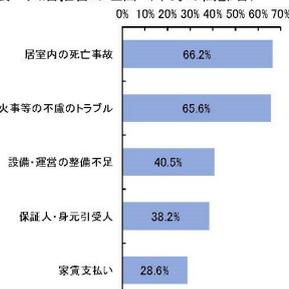
**「住まいは生存権の土台」**

藤井議員は「住まいは生活の基本であり、憲法25条が保障する生存権の土台だ」と力説。国の施策の枠内にとどまらず、高齢者に特化した独自施策を率先してつくるよう強く要請しました。

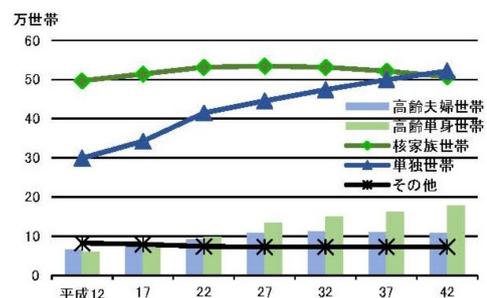
図表 入居拒否の状況



図表 入居拒否の理由(単身の高齢者)



図表 家族類型別の世帯数の推移と将来推計



資料：住宅セーフティネットアンケート  
(平成22年度に名古屋市が東海3県の民間賃貸住宅の所有者向けに実施したアンケート調査：有効回答者数1,009名)

資料：名古屋市総合計画2018